

令和2年度 千葉幼稚園 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年3月22日 学校法人千葉学園千葉幼稚園

1. 教育目標

大人も子どもも共に『よくみる よくきく よくする』

八戸に生まれ日本人女性初の新聞記者であり、**教育者羽仁もと子の言葉**を教育課程に織り込みながら、のびのびとした明るい環境の中で人とのふれあいを大切に、毎日の生活を丁寧に『よくみる よくきく よくする』人に、大人も子どもも共に学び合いながら。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 新しい時代の保育を考える ⇒社会の多様性を意識しながら新しい保育を考える。
- 2) 安全管理の見直し ⇒預かり保育、給食活動など保育を支える事柄の安全管理の見直し

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取組状況
1	新しい時代の保育を考える ①科学する心の育成 ②多様性を意識しての保育 ③保育記録の充実 ④園内研修の充実	B	①クラスだよりや保護者会等にて科学的な取組を保護者に伝えるよう意識して実施してきた。 ②これまでの保育内容について、多様性という概念に置き換える努力が足りなかった。 ③活動内容に対するねらいや保育者の願い、手立てを記載するよう努めた。 ④毎週水曜日朝に30分ずつ園内研修を実施した。
2	安全管理 ⑤預かり保育時間中の安全管理や給食活動における安全の見直し	B	新型コロナウイルス感染防止が優先となり、預かり保育時の避難訓練は実施したものの、その課題を見出すだけに留まり改善には至らなかった。

評価 (A…十分に成果があった。B…成果があった。C…少し成果があった。D…成果がなかった。)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	今年度は、新型コロナウイルス感染防止が優先となり、重点目標を意識し、評価項目を詳細に実施していくことは難しかった。しかし、その中での取組でこれまで当たり前にしてきた保育内容に新たな視点を獲得など収穫もあった。また二学期終了時には、各研究班がこれまでの取組をポスター化して考えるなど実践の足跡も残すことができた。次年度は中途に終わった評価指標の作成も実施し再挑戦していく。

評価 (A…十分に成果があった。B…成果があった。C…少し成果があった。D…成果がなかった。)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	新しい時代の保育を考える 新型コロナウイルスと共生し、社会の一員としての幼稚園経営	①「科学する心の育成」実践二年目への取組 ②そぎ落として見えてきた教育内容の実践 ③社会に目を向けた教育実践 (SDGs)
2	保育におけるリーダーシップ	教員もアクティブラーニングを意識して取り組む。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・評価を実施する際、課題に対し、教員の取組内容への振り返り、そして子どもの姿ベースでの振り返りが必要だが、小学校の場合などは児童自ら自己評価を行うことができるが、幼児にそれを求めることは難しい。〇〇ができるようになるというのではなく、〇〇という姿になっていくという幼児期において、子どもの姿を基に、どう評価していくか、今後も試行錯誤しながら実施してほしい。
- ・新しい時代として、幼稚園であってもSDGsに取り組んでいるなど、社会に向けてよい取組を行っている。これからも社会の中の幼稚園として存在してほしい。
- ・コロナ禍であっても、保護者と連携協力する中で、工夫しながら園行事等を行っており、保護者の共感も多かった。次年度も今年度を踏まえてよい運営ができるように願っている。